

● 共催・協力事業

ボランティア・NPO活動センターには、前項の学生と地域をつなぐ取り組みの他にもさまざまな地域団体や行政などから事業への協力依頼があります。センター内でどのように関わっていくのかを検討し、多くの場合、学生スタッフやコーディネーターが協働でそれらの依頼に対応しています。

企画名	タイトル	スタディツアー合同説明会
報告者名		竹村 光世（深草キャンパス コーディネーター）
日 時		夏季ツアー説明会：2011年6月4日（土）13時30分～17時00分 冬季・春季ツアー説明会：2011年11月9日（水）16時30分～20時30分
場 所		夏季ツアー説明会：キャンパスプラザ京都（2F ホール） 冬季・春季ツアー説明会：キャンパスプラザ京都（2F 第1会議室）
実施主体（共催）		特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会／株式会社 マイチケット ボランティア・NPO 活動センター
参加人数		夏季 約70人／冬季・春季 約60人

■経緯・目的

センターには年度初めから「海外でのボランティアに関心がある」「長期休暇中にスタディツアーに参加してみたい」「どんなスタディツアーがあるのか知りたい」という学生が多く来室します。

そこで、センターの提携団体である（特活）関西 NGO 協議会と、海外体験学習プログラム（P.64参照）でも各種手配に携わっている（株）マイチケットとの共催で、スタディツアーを企画している NGO 団体を集めて合同説明会を開催しました。

■概 要

【夏季ツアー説明会】

■14：00～15：00 第1部

「参加者が語るスタディツアーの魅力・体験談」
藤澤良介さん（龍谷大学経済学部4年次生）



2010年にカンボジア王国へのスタディツアーに参加した藤澤さんに、参加者の視点から

スタディツアーの魅力を話していただきました。

■15：00～17：00 第2部

「NGOに直接きいてみようー

スタディツアーのこと」

参加 NGO 団体（別表）が会場内にブースを設け、ブースごとに各団体それぞれの企画するスタディツアーについてブース来訪者に説明しました。説明会参加者はそれぞれ関心のある団体のブースを訪問し、団体の取り組みやツアー内容などを個別に質問します。出展団体以外のチラシや団体パンフレット等も設置し、参加者が手に取って比較・検討できるようにしました。

また16：30からは、ブースを訪れた印を集めた参加者を対象に（株）マイチケット提供によるバリ島往復航空券や NGO 団体などから提供された景品の抽選会を実施しました。

【冬季・春季ツアー説明会】

16：30～20：30 上記第2部の内容のみ実施

	ブース出展団体
6月	地球の友と歩む会、ARBA、LOOB Japan、アクセス、ICYE Japan、アジア太平洋農耕文化の会、とも、トランセンド研究会、ニランジャナセワサンガ、CIEE・国際教育交換協議会、ジュレーラダック、ACE、プラビーダの会、ツナミクラフト、緑の地球ネットワーク、Link・森と水と人をつなぐ会、NICE、CFE、マイチケット 計19団体

11月	ニランジャンナセワサンガ、ジュレーラダック、ICYE Japan、アジアキリスト教教育基金、ツナミクラフト、ウータン・森と生活を考える会、ソムニード、シャプラニール＝市民による国際協力の会、日印教育支援センター、地球の友と歩む会、アクセス、ARBA、CIEE、緑の地球ネットワーク、プラビーダの会、テラ・ルネッサンス、NICE、マイチケット 計18団体
-----	---

■参加者の声・得られた効果など

- 海外でのボランティア活動をする上でのきっかけを作れたと思う。
- スタディツアーの形や訪問先は多岐にわたるのだとわかりました。
- スタディツアーのことを全く知らずに来ましたが、すごく興味が持てました！
- 「参加者が語るスタディツアーの魅力・体験談」が、とても良かったです。スタディツアーに参加することはゴールではなく、『始まり』という言葉が印象的でした。

■コーディネーター所感

夏の説明会では、スタディツアーの企画者ではなく参加者の視点での話題提供を初めて試みたところ、まだあまりスタディツアーについて

イメージがない初心者層にはとても好評でした。冬・春の説明会では、平日夕方の開催だとより参加しやすいのではないかとということで、日程の設定を変更してみました。休日のほうが参加者の反応はよかったです。

スタディツアーに興味がある参加者だけではなく、スタディツアーを企画する側の団体同士のネットワークづくりや、企画作りの参考にもなるようで、徐々に取り組みが広がっていると感じます。

今後は本学学生に限らず、他大学の学生にも広く呼びかけ、参加してもらうことを目指して、大学コンソーシアム京都とのコーディネートや他大学との協働を進めていきたいと思っています。



企画名	タイトル	第1回 AIDS 文化フォーラム in 京都の後援
報告者名		ヒギンズ 尚美 (瀬田キャンパス コーディネーター)
実施日/場所		プレ講演会：2011年7月13日（水）17時30分～19時 ／深草キャンパス 3号館201教室 フォーラム：2011年10月1日（土）12時30分～18時15分 2日（日）10時00～16時15分 ／大宮キャンパス 東餐（トウコウ）
主催		プレ講演会：ボランティア・NPO 活動センター フォーラム：AIDS 文化フォーラム in 京都運営委員会
参加人数		プレ講演会：約20名／フォーラム：約1,000名（2日間）
ボランティア協力人数		学生スタッフ11人（深草5人／瀬田6人）

■経緯・目的

市民参画による市民向けフォーラムである「AIDS 文化フォーラム in 横浜」は1994年に発足し、全国各地で HIV/AIDS に取り組む団体・個人の発表・交流の場として、また、多くの市民、特に若者に向けての啓発の場として定着しています。



プレ講演会の様子

この取り組みの関西・西日本版として、「第1回 AIDS文化フォーラム in 京都」(以下「フォーラム」)の開催が計画され、フォーラムの運営委員会(本学文学部卒業生を含む)から本学に対して、フォーラムへの協力依頼がありました。

このフォーラムには、本学学生のボランティア等での参加・協力も見込まれ、HIV/AIDS問題の啓発だけでなく、多様性の理解や人権・共生について考える機会となり、それはボランティア・NPO活動センターの活動趣旨ともつながります。また、市民、若者(中高生含む)等の来場が見込まれ、本学の施設に触れていたく機会となるとも考えられます。

そこで、本フォーラムに対し、ボランティア・NPO活動センターが学内の窓口として各種調整や学内広報等を行うことになりました。



フォーラムの様子

■概要

【プレ講演会】

○講師/内容:

- 京都第一赤十字病院 感染制御部
大野 聖子 氏
「エイズに関する基礎知識や世界と日本のエイズの現状」
- 赤十字ユースメンバー 佐藤 文寛 氏 他
「若者から若者への啓発(ピア・エデュケーション)の重要性とフォーラム参加の呼びかけ」

【フォーラム当日】

○1日目

- 開会式「なぜ AIDS? なぜ文化? なぜ京都?」
- 全体会「市民にぜひ知って欲しいセクシャリティーの多様性について」
- HIV 抗体検査
- テーマ別に13の分科会

○2日目

- テーマ別に16の分科会
- 龍谷大学アコースティックサークル「音×音(ネオン)によるバンド演奏
- 全体会、閉会式

■参加者の声・得られた効果など

プレ講演会参加者の声

- エイズについて学習したことがあったので、だいたい分っているつもりでしたが、今回の講演会で知らなかったことが多く、とても勉強になりました。HIVについて、若者から若者に啓発していくことは、とても大切だと思いました。(学生)
- HIV感染者が特に関西で増えているという事実を今回知り驚きました。ピアエデュケーションという言葉も初めて聞き、すごく面白いなと思いました。(教職員)

フォーラム当日ボランティア参加学生の声

- HIV や AIDS に関する正しい知識やそこから派生した問題を知ることができてよかった。
- 勉強になるお話を聞いて、充実していました。基本的にボランティアらしいことをあまりすることがなく、参加者として聞いていたのが大部分でした。フォーラムの感想としては、AIDSの知識を改めて深めることができ、疑問に思っていたことも解決できたので、参加してよかったです。展示などは時間がない人でも気軽にのぞけたようなので、次回行うときもあるといいのではないのでしょうか。

【学内でのエイズ予防啓発キャンペーンへの協力】

12月1日の世界エイズデーに、深草キャンパスにて本学保健管理センターがエイズ予防啓発キャンペーンを行ないました。フォーラムにボランティア協力した学生スタッフや、その他の学生もボランティアとしてチラシや啓発グッズなどを配布しました。

また、京都府エイズ等予防啓発ボランティアグループ「紅紐」のスタッフが、エイズキャンペーンのシンボルであるレッドリボンのネイルアートを実施し、多くの学生がブースを訪れました。

■コーディネーター所感

学生をはじめとする若者にとって、自身の身

の回りや日常生活とも関連する興味深いテーマであり、さまざまなことがHIV/AIDSと繋がっていることを知る良い機会になったと感じています。

しかしながら、プレ講演会に関しては、フォーラム当日会場である大宮キャンパスではなく、学生数なども考慮して深草キャンパスで行ったのですが、広報が行き届かず集客面で苦戦しました。参加した学生からは、とても良い感想を得られた内容だったので、もっと多くの学生に周知し、興味・関心を持ってもらえるような広報アプローチを考えていく必要があると改めて感じました。

フォーラム当日に関しては、運営委員の皆さんは普段医療関係や学校教育などに従事する方が多いためか、こういった市民活動イベントの運営ボランティアに参加した経験のある学生からは、いくつかの意見がありました。

本学で開催される外部団体のフォーラムをセンターが後援するのはここ数年なかった形式であり、今後も他の後援事業等を行う際は、実施する側だけでなくボランティアとして参加する側もやりがいを感じられるようなものを目指して、運営組織側との連絡を密にしていきたいと思っています。



企画名	タイトル	JICA 研修生へのセンター事業紹介
報告者名		ヒギンズ 尚美 (瀬田キャンパス コーディネーター)
実施日		2011年9月9日(金) 12時30分~16時30分
場 所		センター紹介: 大宮キャンパス清風館 施設見学・交流会: 西本願寺、大宮キャンパス北校102・103教室
実施主体		特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会
受入・協力		ボランティア・NPO 活動センター
参加人数		研修生12人(8か国: アフガニスタン、ジンバブエ、ソロモン、トンガ、ハイチ、パキスタン、パプアニューギニア、東ティモール)、学生スタッフ10人

■経緯・目的

「スタディツアー合同説明会」(P.58参照)などでセンターと協力関係にある特定非営利活動法人関西 NGO 協議会は、JICA 大阪から途上国の研修生受け入れプログラム「[JICA-NGO 連携による実践的参加型コミュニティ開発(A)]」研修コースのコーディネートを委託されています。

毎年、プログラムの中に国際協力や地域づくり等に取り組む団体への訪問が組み込まれており、今年度は関西 NGO 協議会から当センターに訪問の依頼がありました。

センターの取り組みをより多くの機関や海外にも知ってもらう一方で、研修生との交流を通してセンターにとっても各国の地域課題などを



学ぶ良い機会になると考えたため、本事業に協力することになりました。

■概 要

1. パワーポイントを使ってのセンターの概要

説明と今まで実施してきた主な事業の紹介
東日本大震災復興支援の取り組み (P.13)
／子ども兵講演会 (2009年度) 伏見区野
宿者支援プロジェクト (P.56) ／大津祭
ボランティア (P.53) ・丸屋町商店街夜
市ボランティア (P.50)

2. 特定非営利活動法人アクセスによる同団体の概要説明と事業の紹介
3. 紹介したテーマに分かれ、研修生を交えてグループディスカッション
4. 西本願寺拝観・見学
5. 日本文化 (煎茶) の体験

■参加者の声・得られた効果など

関西 NGO 協議会の声

研修員たちは日本の学生と交流できたことや、西本願寺見学、煎茶体験の機会をいただけたことに喜んでおり、今後は日本の近代化や現在の課題についても議論をしていきます。学生のみなさんにしていただいた活動紹介から、これからの研修で議論を深めていくべきポイントを研修員もいくつか発見したようでした。

学生スタッフの声

- ・短い時間でこんなに多くの外国の方とお話できたのは初めてでした。まだまだ外国のことや日本、自分たちの活動をわかっていないなど実感しました。(法学部3回生)
- ・研修生の学ぶ意欲が高く、会話している中でも日本語について教えてくれと頼まれたりしました。また、母国語ではないのにスラスラ英語を話すのを見てものすごく刺激を受け、もっともっと英語を話せるようになりたいと思いました。(国際文化学部2回生)
- ・自分たちが関わった企画について振り返ることができ、他の問題に対しても意識を高めることもできた良い機会となりました。(経済学部4回生)

【大津祭の見学案内】

センターの取り組み紹介の中で説明した大津祭の本祭が研修生滞在中の10月9日(日)に実施されるため、彼らにとっては日本文化に触れるのももちろんのこと、本研修の趣旨でもある市民の手で作り上げている地域行事を見学できる良い機会となると考えました。そこで、本行事の外国観光客の通訳活動を毎年行っている財団法人大津市国際親善協会の通訳ボランティア

スタッフの協力を得て、大津祭を案内することになりました。

当日は、研修生2名が学生スタッフ5名と曳山巡行を見学し、本学学生ボランティアが曳山を引く様子を応援しながら、曳山から投げられる粽をたくさん取るなど楽しい時間を過ごしてもらえました。

■コーディネーター所感

研修生に紹介する事業内容は、それぞれ担当する学生スタッフが夏季休暇中にパワーポイントと英訳文の作成まで行いました。普段から学内外へのセンター広報や活動目的の説明が難しいと感じていますが、今回、自分たちの取り組みを知らない人に対していかにわかりやすく、さらに母語以外の言葉で説明するのが難しいかを痛感しました。

また、紹介した事業の中でも、災害や貧困問題への取り組みに研修生の関心が高く、少子高齢化による地域や伝統行事の活性化は、他の問題と比べて当初は研修生の関心度が低かったように思います。もっと、今回の研修テーマである「コミュニティ開発」の一つであるという視点で、市民の手で作り上げていることを強調したプレゼンテーションをすべきだったと気づくことができました。

そして、センターの一番の目的である「学生のボランティア促進を通じた地域社会への貢献」は、次世代の市民社会の担い手を育成することに繋がり、それがコミュニティ開発においても重要なポイントの一つであるということをもっと伝えるべきだったと感じています。

今後、学内外へセンターの紹介をする際には、この経験を生かして、よりわかりやすい伝え方をしていきたいと思っています。



○その他の地域イベントなどへの出展、協力

センターでは、これまで報告してきた事業以外に特に協力等が必要と思われるイベント等へ出展、協力を行いました。

■深草キャンパス

日時・場所	実施内容など	内 容
2011年9月24日(土) 9月25日(日) 大宮キャンパス東費	「2011年全国地域・寄せ場交流会」への共催	交流会の後援と施設の貸出しを行った。また、ボランティア募集及び広報協力をしました。
2011年10月2日(日) みやこめっせ	「福祉ボランティア・社協フェスタ」への出展	学生スタッフなどがポスターなどで、東日本大震災復興支援についてのセンターの活動を中心に紹介しました。
2011年11月20日(日) 深草キャンパス	第50回おむすびミーティングへの参加	門川京都市長や地域住民の方に向けて、本学の東日本大震災復興支援にかかる取り組みを発表し、地域防災についての意見交換などを行いました。
2012年1月14日(土) 1月16日(月)～27日(金) 伏見区役所深草支所	第9回深草文化交流会への参加	開催期間中、東日本大震災復興支援活動に関する展示報告を行うと共に、14日の深草文化交流会のイベントでは、学生スタッフがボランティアとして館内案内などを行いました。
2012年1月16日(月) ～1月20日(金) 京都市役所本館ロビー	「防災とボランティア」週間の展示に写真提供	伏見消防署が実施した京都市役所内での「防災とボランティア」の展示に写真を提供し、当センターの東日本大震災復興支援の取り組みを紹介しました。

■瀬田キャンパス

日時・場所	実施内容など	内 容
2011年11月13日(日) 明日都浜大津	「おおつボランティア・市民活動フェスタ2011」への出展	学生スタッフが、東日本大震災復興支援に関する本学の取り組みや「ナカマチ商店街土曜夜市 in 丸屋町」「大津祭」等の活動内容の展示およびセンターの活動を紹介しました。
2011年12月8日(木) エフエム滋賀	エフエム滋賀 ラジオ収録	東日本大震災復興支援ボランティア第4回の参加学生が、活動を通して感じたことについてインタビューを受け、12月15日(木)に放送されました。
2012年2月11日(土) NHK 大津放送局 特設スタジオ	防災ラジオ滋賀2012への出演	学生スタッフおよび東日本大震災復興支援ボランティア第5回の参加学生が、NHK 大津放送局および他FM局合同ラジオ生放送の番組で、東日本大震災を通して県内の地域防災について考え、他の参加者やゲストの方と意見を交わしました。



深草：深草文化交流会の様子



瀬田：おおつボランティア・市民活動フェスタの様子